

沖縄産無釉陶器

大皿

■ 出土地：円覚寺跡

先月から始まった新コーナー「まいコレ」。
収蔵庫に眠るイチ押しのお土産品を、月替わり
でご紹介。今月お見せするのは、前回の鬼瓦
と同じく円覚寺跡から出土した大皿です。

この大皿は、ほぼ完形かんけいの状態じょうたいで、円覚寺えんがくじの龍淵殿りゅうえんでん地区ちくから発掘されました。大正時代から昭和初期にかけて壺屋つぼやで作られた、琉球古典焼りゅうきゅうこてんやきとよばれるものです。主に本土市場向けに作られ、一部には焼いたあとに着色したものもあります。

この荒焼（アラヤチ）きょうそう*の大皿の内面部には、沖縄の競漕きょうそう行事ぎょうじハーリー（旧暦5月4日）に用いられる爬龍船はりゅうせんが陽刻ようこく*されており、裏側には「琉球」の刻印こくいんがあります。大皿の形状ですが、料理を盛る実用的なものではなく、奉納品ほうのうひんもしくは装飾品そうしょくひんであったと考えられます。

他にも円覚寺跡からは、皿わん、碗こう、香炉ろ、火炉かろ、急須きゅうす、鉢はち、搥鉢すりばち、蓋ふた、甕かめ、壺つぼ、瓶びんなど、様々な荒焼が出土しています。

* 荒焼（アラヤチ）…沖縄産の釉薬ゆうやくを施さない陶器ほどこ

* 陽刻…文様もんようの周囲まわりを彫ほることで、文様を立体的に見せる方法